

第4回 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会

会 議 記 録

1 開催概要

日 時 : 令和3年3月5日(金)

①13:30~15:00

②16:00~17:30

③18:30~20:00

※新型コロナウイルス対策のため、各グループごとに時間を分けて意見交換を行いました。

場 所 : 真駒内総合福祉センター 2階「ホールA・B」
(南区真駒内幸町2丁目1-5)

参加者 : 18名

事務局	: 札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課調整担当課長	阿部賢
	〃	調整担当係長 飯田健
	〃	担当職員 中山健介
	〃	担当職員 水木隆之

(運営支援 株式会社 K I T A B A)

配布資料 : 資料1 事務局からのパワーポイント説明資料
資料2 土地利用計画(案1、案2)
資料3 真駒内駅前地区まちづくり地域協議会名簿

2 ワークショップの結果

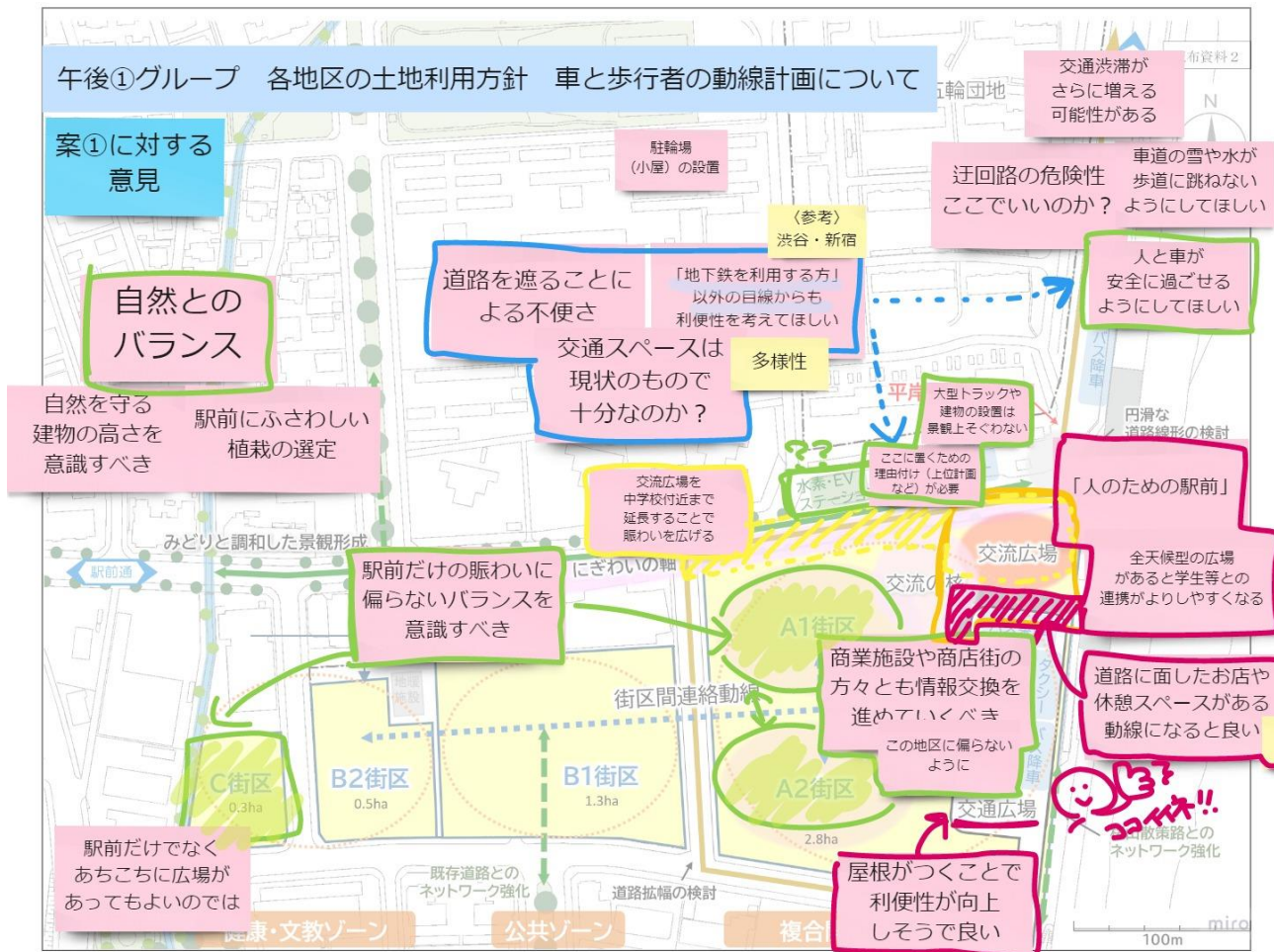
■午後①グループの結果

プログラム：

時間	内容	
13：30	開会のあいさつ	
13：35	情報提供（札幌市）	<ul style="list-style-type: none">・今回の地域協議会の位置づけ・まちづくり計画の全体構成・第3回検討委員会・地域協議会の振り返り・土地利用計画案について
13：50	意見交換	<ul style="list-style-type: none">・各街区の土地利用方針について・車及び歩行者の動線計画について・交流広場の活用方法について
14：50	発表	
14：55	閉会のあいさつ	<ul style="list-style-type: none">・事務連絡・ワークショップのアンケート記入、回収
15：00	閉会	



◆各街区の土地利用方針について



○駅前だけでなく真駒内地域及び南区全体としてバランスを意識したにぎわいの創出

- ・ 駅前（A街区）だけのにぎわいが偏ることない、全体のバランスを意識したまちづくりを考えるべき。周辺店舗も含めた一体的な活性化が必要である。
- ・ 交流広場を駅前から中学校付近まで広げ、広く交流の核ができるようにしたい。
- ・ 街区内の通路にも駅前通りのにぎわいがにじみ出るようになって良い。
- ・ 駅前に南区の案内マップや、レンタルサイクルを設置することで、シーニックバイウェイなどの取組とともに南区全体をめぐるきっかけになると良い。

○駅前の交通施設について

- ・ 案1のように駅と交通施設がつながることで、寒い時期に外でバスを待たなくても良くなるのであれば利便性が高まる。
- ・ 交通広場に屋根がつくと利便性が向上しそう。
- ・ バス待合に面してお店や休憩スペースがあると良い。
- ・ 駅利用者の送り迎えによる一般車の路上駐車がおきないように、十分な駐停車スペースを確保する必要がある。
- ・ 自転車置き場の位置についても検討すべきである。

○真駒内の景観と調和のとれた駅前

- ・ 駅前の街路樹や桜山などの景観と調和のとれた駅前空間になると良い。
- ・ 新たに建てられる行政施設などは、高い建物にならないようにするなど景観への配慮が必要である。

- ・ 駅前にふさわしい樹木や植栽を植えるなどにより、既存地域資源とのネットワーク強化を図ってはどうか。

○スマートコミュニティ

- ・ 水素・EVステーションを真駒内駅前に設置することの必要性について整理すべきである。駅前に置くべきもの、置かなくても良いものをしっかりと分ける必要がある。
- ・ 真駒内で環境に配慮した先進的なまちづくりを取り組むのであれば、今後の展開として真駒内の取組が波及していくような表現が必要である。
- ・ 真駒内や南区全体のまちづくりの方針に、エネルギーの視点で目指す姿を加えても良いのではないか。

◆車及び歩行者の動線計画について

○人のための駅前

- ・ 様々な世代を真駒内に呼び込むために、案1のように駅前の交流広場は人が集まりにぎわう「人のための駅前」になると良い。にぎわい創出には駅前の活動スペースが重要になる。
- ・ 冬場のことも考え、使いやすい広場や歩きやすい歩道になると良い。
- ・ 駅前だけでなく、いろいろなところに広場空間があっても良い。

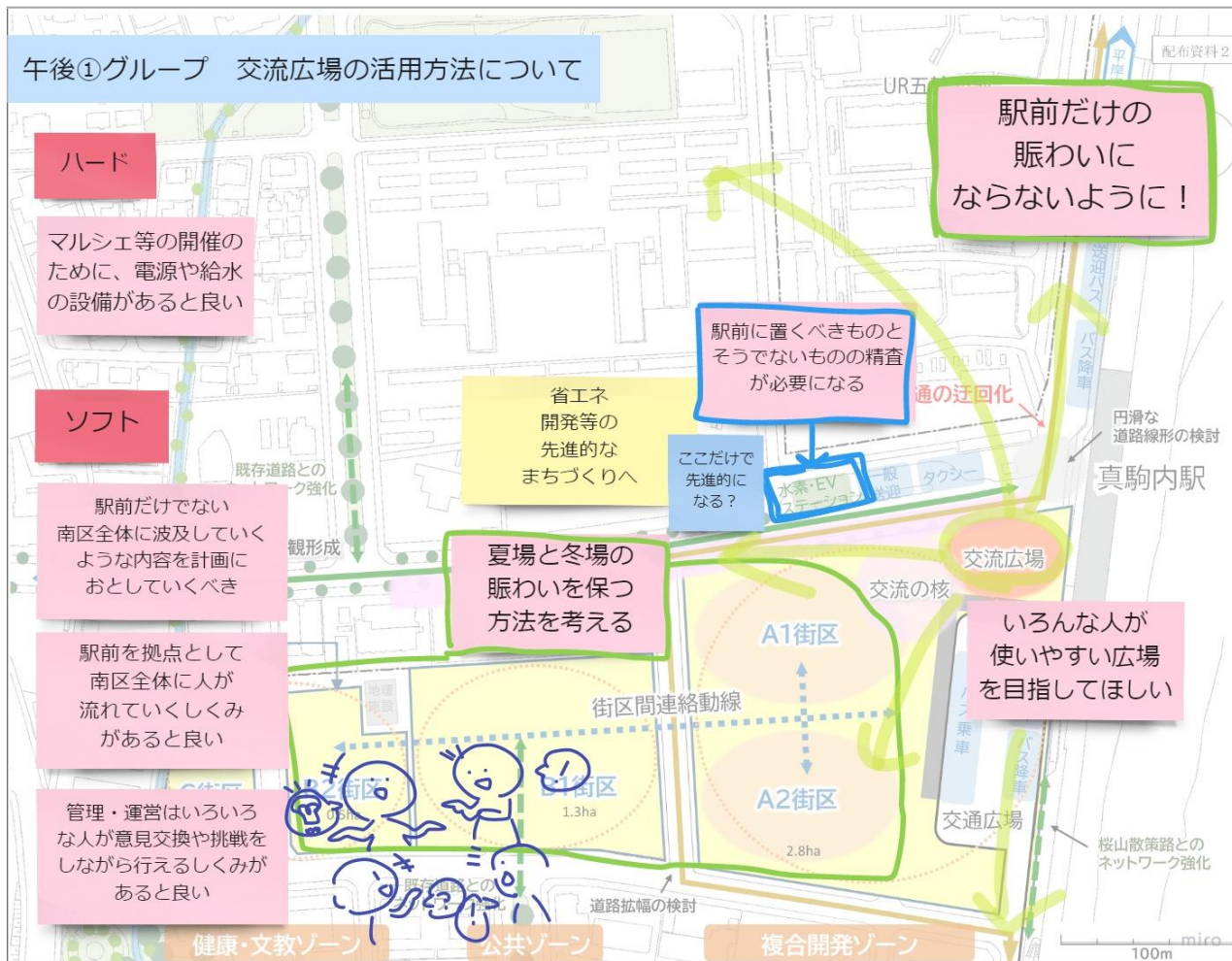
○人と車の安全性等を考慮

- ・ 案1は平岸通の迂回により少し遠回りになるが、不便ではないと思う。
- ・ 案1は街区間連絡動線と迂回路が交差しているので、案1にするのであれば人と車が安全に通れるように配慮が必要である。
- ・ 案1のとおり平岸通を迂回化することにより、交通渋滞の増加や、緊急車両の運用への支障が心配される。

○平岸通に対する生活道路としての愛着

- ・ 平岸通は歴史的にも地域住民に長く愛されてきた生活道路である。道路形状を変更することは地下鉄利用者の利便性だけを考えているように感じるため、案2のように現状の道路形状を維持してほしい。

◆交流広場の活用方法について



○広場の形状・設備等

- ・夏場だけでなく、冬場にも広場でにぎわいを保つことのできる方法を考えるべき。
- ・全天候型の大屋根がかかった広場があるとイベントなどで使いやすい。
- ・シーニックバイウェイでも取り組んでいるような大きな観光マップが駅前にあると良い。
- ・広場にコーヒーを飲むスペースや、南区の物産販売コーナーなどがあると良い。
- ・現時点で駅前広場の必要な設備をあげることは難しいが、いろいろな人にも使いやすい広場にすることが重要である。
- ・マルシェ等の開催のため、電源や給水設備があると良い。

○広場の運営等の仕組み

- ・広場の運営や管理する仕組みとして、多様な人がアイデアを持ち寄り、思ったことをチャレンジできるプラットフォームができると良い。

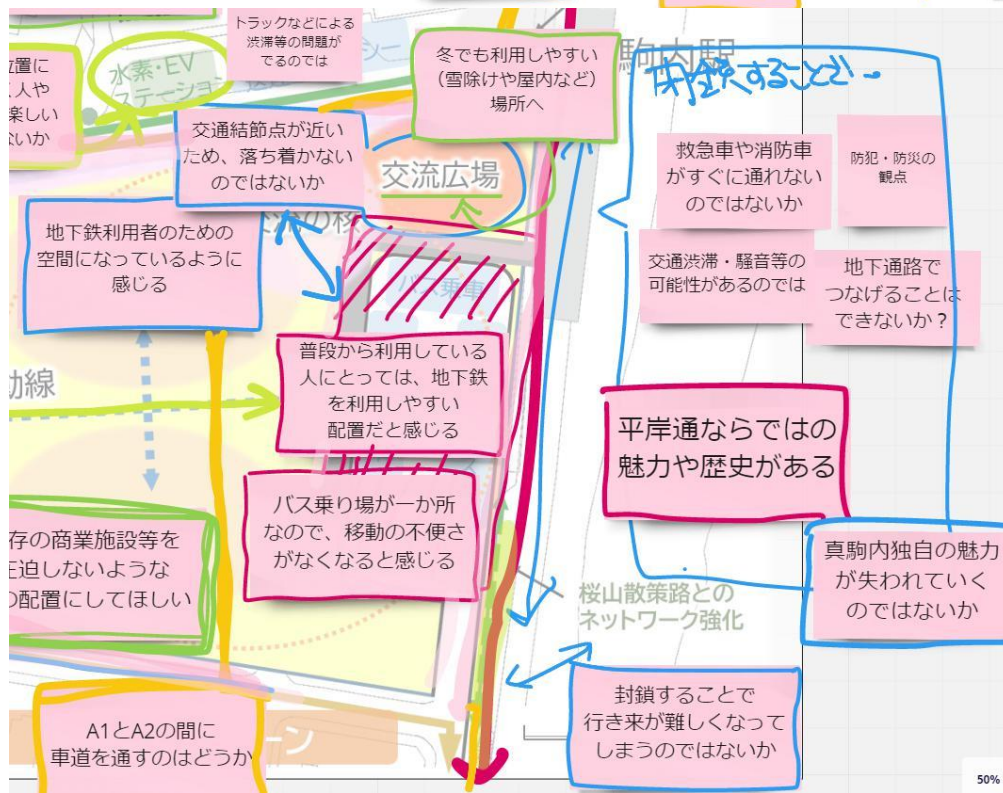
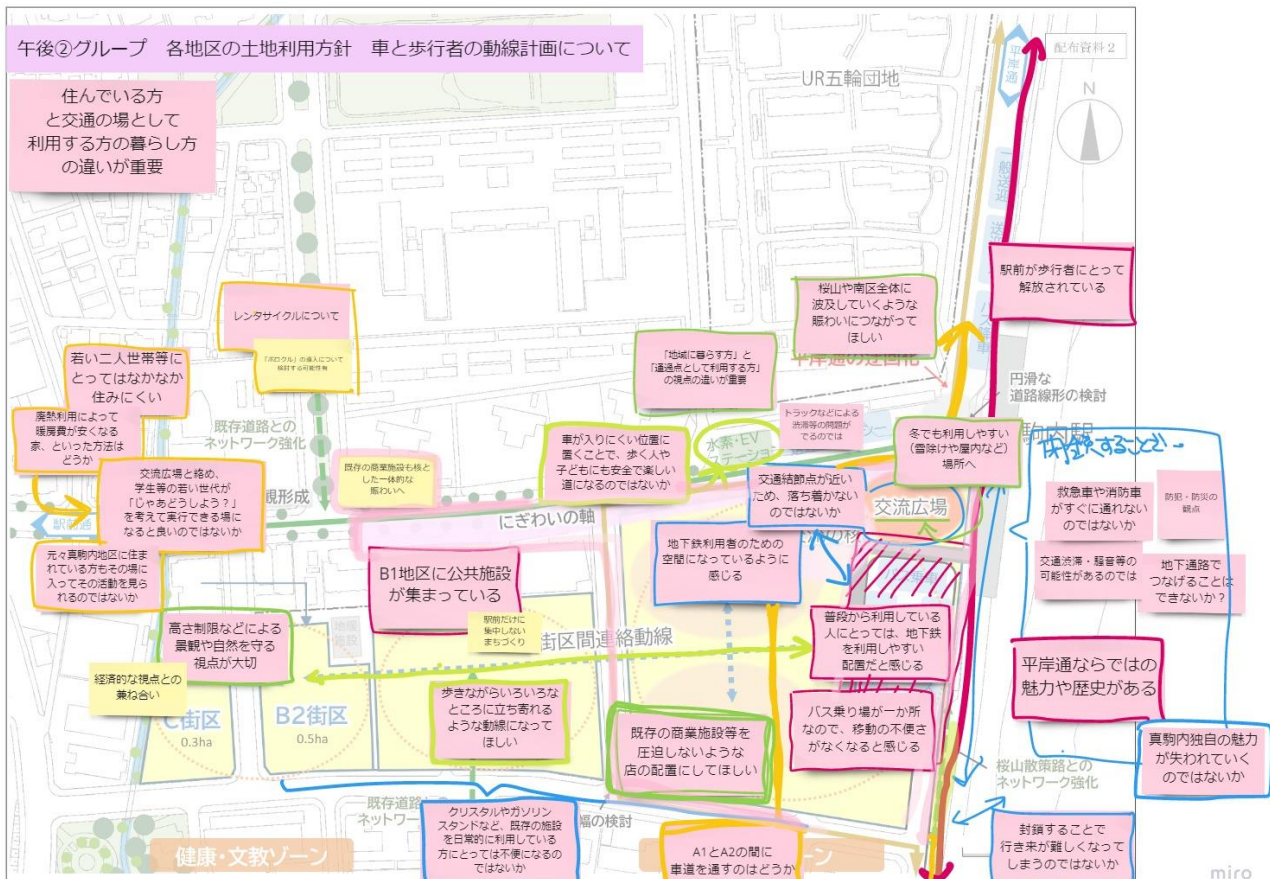
■午後②グループの結果

プログラム：

時間	内容	
16：00	開会のあいさつ	
16：05	情報提供（札幌市）	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の地域協議会の位置づけ ・まちづくり計画の全体構成 ・第3回検討委員会・地域協議会の振り返り ・土地利用計画案について
16：20	意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・各街区の土地利用方針について ・車及び歩行者の動線計画について ・交流広場の活用方法について
17：20	発表	
17：25	閉会のあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡 ・ワークショップのアンケート記入、回収
17：30	閉会	



◆各街区の土地利用方針について



○駅前だけに集中しないまちづくり

- ・ A街区に商業施設、B街区に公共施設ができるなど駅前だけに集中しないまちづくりになっていることが良い。
- ・ レンタルサイクルは、駅前からにぎわいを波及させるために有効な手段であるため、実現の可能性を継続して探ってもらいたい。

○既存の商業施設への配慮

- ・ A 1 街区と既存の商業施設で一体的なにぎわいの軸をつくり、駅前の人通りを増やすことにより、既存店舗と共存・共栄しながら発展していくことが重要である。

○豊かな自然を活かしたまちづくり

- ・ 都市計画や札幌市のルールなどで、真駒内の魅力である桜山やみどりの景観などを守りながら再整備を進めてほしい。
- ・ 駅前通りは現状で快適に歩くことができるため、それらを活かしつついろいろな店などに立ち寄れるようになると良い。
- ・ 駅から桜山散策路へ道が通りにくいように見える。桜山散策路への道を歩きやすくするなどの工夫が必要である。

○街区間連絡動線

- ・ 駅から真駒内川方向へ人を導いていくために、どのような街区間連絡動線をつくるかが重要である。

○スマートコミュニティ

- ・ 水素・EVステーションは駅前ではなく、国道沿いにもつてくると良いのではないか。駅前には車を利用する人ではなく、歩行者を中心に利用できる場所にするべきである。
- ・ 真駒内は若い世代に向けた住宅が少なく、若い人にとって住みにくいエリアだと感じている。真駒内は駒岡清掃工場の排熱利用ができることがメリットの一つであるため、暖房費の安い住宅を供給することにより若い世代の流入を促していけるのではないか。

◆車及び歩行者の動線計画について

○案 1 は地下鉄利用者の利便性が高く、駅前が歩行者に開放される

- ・ 真駒内駅からバスに乗って他地域に行くなど、バスと地下鉄をよく利用している人にとって案 1 はとても使いやすい案だと感じた。
- ・ 案 1 は、駅前が歩行者に開放され、駅から真駒内の魅力である豊かな自然へのつながりが生まれるとても良い案だと思う。

○迂回路の検討が必要

- ・ 交通渋滞が起こると迂回路に車が流れ、真駒内の閑静な住宅地に騒音が発生する可能性がある。
- ・ 交通広場と A 1、A 2 街区の間に道路をつくるなど、できるだけ現状の道路形状に近づけることはできないか。

○現状の道路形状を維持したまちづくりを進めるべき

- ・ 現状の平岸通を活かした案（案 2）は、これまでの真駒内の魅力・特色を活かしたものであり、今までの人の流れをもとにしたまちづくりができる。
- ・ 案 1 のとおり平岸通を迂回化することにより、緊急時の対応などに支障がでないか懸念される。
- ・ 駅と駅前街区を地下通路でつなげるなど他の接続方法は考えられないか。

◆交流広場の活用方法について

○広場の形状等

- ・交流広場は季節によって使い方が変わるため、それぞれの季節において使いやすい広場になると良い。
- ・雪除けがないと冬場の利用は難しいため、交流広場を屋内にすることも考えた方が良い。

○広場を活用したまちづくり

- ・真駒内は若い世代にとって住みにくいという意見もあり、そのような地域課題について交流広場を拠点としながらみんなで考えていくこともできるのではないかな。

◆今後の進め方について

- ・区民アンケートについては、意見交換会などにより地域住民にしっかりと情報提供をした上で行うべきである。

■夜間グループの結果

プログラム：

時間	内容	
18：30	開会のあいさつ	
18：35	情報提供（札幌市）	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の地域協議会の位置づけ ・まちづくり計画の全体構成 ・第3回検討委員会・地域協議会の振り返り ・土地利用計画案について
18：50	意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・各街区の土地利用方針について ・車及び歩行者の動線計画について ・交流広場の活用方法について
19：50	発表	
19：55	閉会のあいさつ	<ul style="list-style-type: none"> ・事務連絡 ・ワークショップのアンケート記入、回収
20：00	閉会	



◆各街区の土地利用方針について



○既存の商業施設への配慮

- ・駅前にお店ができると便利だが、にぎわいの軸の核となるお店は既にあるため既存の店舗のことも考慮して再編を考えてほしい。小さな店舗がなくなると、買い物に行けない住民が生まれてしまう。

◆車及び歩行者の動線計画について

○歩行空間の連続性

- ・案1は歩行空間に連続性があり、にぎわいが生まれるとても良い案になっている。

○乗り継ぎの利便性向上

- ・バスと地下鉄の乗り継ぎがスムーズで、冬場や雨天時などに外で待つことが解消される点で案1が良い。
- ・バス待ち時間で買い物や勉強ができるなど、時間を有意義に使える点で案1が魅力的である。
- ・真駒内駅からバリアフリーで真っ直ぐバス乗場に行けるため、お年寄りや障がいを持たれている方にとっては使いやすくなる。一方、一般送迎者の駐車スペースが駅から遠くなり、車いすなどで利用する人にとっては使いにくくなる可能性があるため検討が必要である。

○交通広場の混雑への懸念

- ・案1は良いが、交通広場の出入口が南側に一つしかないため、バスやタクシーの出入りを考えると混雑しないか心配である。

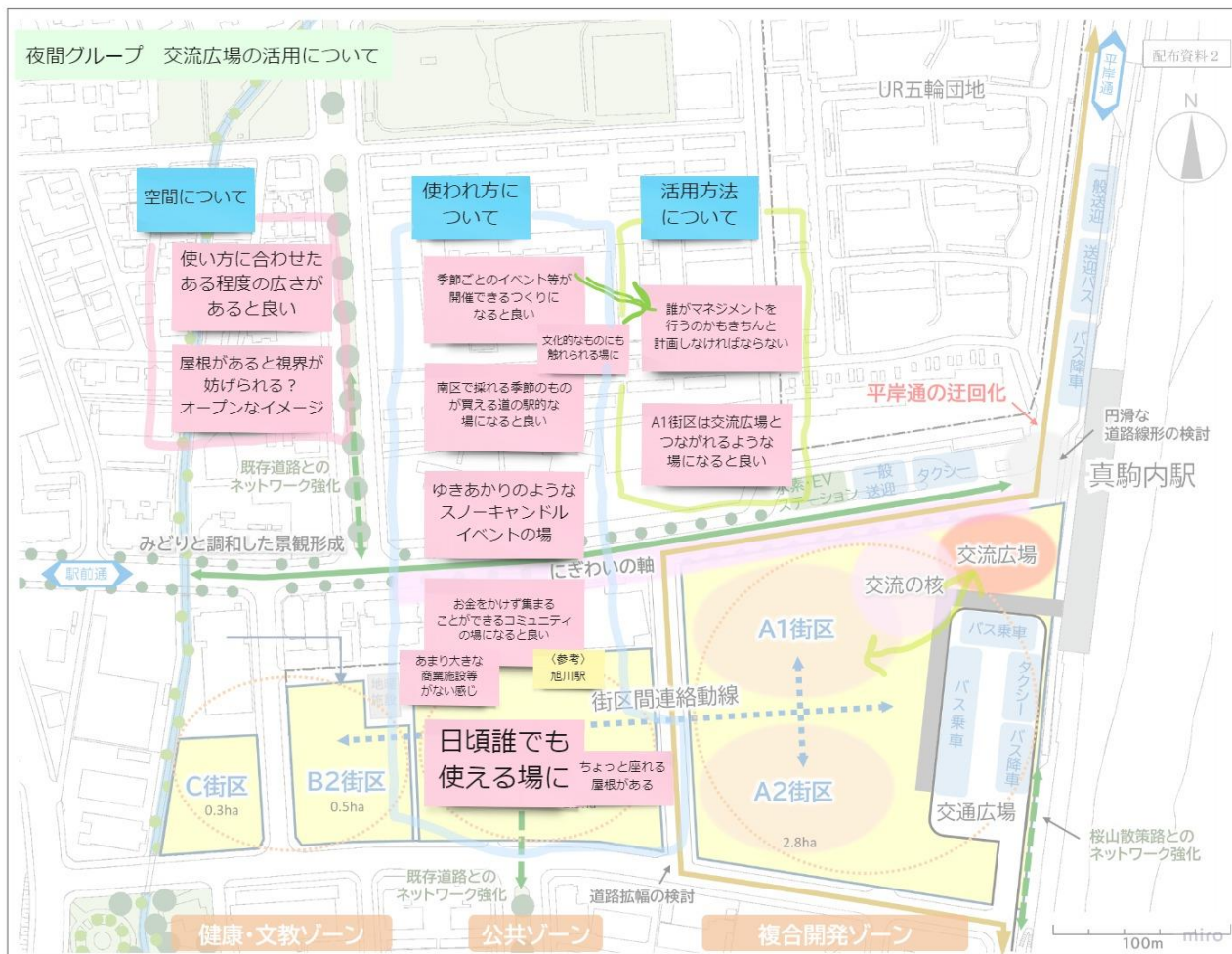
○迂回路の検討

- ・ 案1は、平岸通を迂回路として利用している人にとっては不便になる可能性がある。
- ・ 駅を利用する人にとっては案1が良いと感じるが、真駒内に住んでいる人には現状から道路形状が変わることに対して違和感を抱く人がいるのではないか。
- ・ 平岸通は幹線道路であるため、迂回化にはさらに検討が必要だと考える。

○自転車置き場の整備

- ・ 自転車置き場の位置についても検討すべきである。

◆交流広場の活用方法について



○広場の形状・設備等

- ・季節ごとに、その状況に合わせてイベント等が開催できるつくりになると良い。
- ・イメージとしては雪あかりのようなイベントができると良い。
- ・どのような使い方するかに合わせて、必要な広場面積が確保されていると良い。
- ・広場に屋根があると視界が遮られるため、オープンなイメージではなくなる。
- ・A1街区は交流広場とつながり、一体的に使えるようになると良い。
- ・ちょっと座れるスペースがあるなど、気軽に誰もが使える広場になると良い。
- ・旭川駅の広場のよう、ベンチを設置するなどあまりお金をかけずにみんなが集まれる場所になると良い。
- ・南区は農家が多く、おいしい野菜や果物がたくさんある。道の駅のようなものが駅前があり、いつも南区で採れたものを買えたり、定山溪温泉やアイヌの施設などの文化的なものを展示したり、イベントも楽しめるような南区全体の交流の核になると良い。また、南区の玄関口として地域の魅力を発信していけると良い。

○広場の運営等の仕組み

- ・交流広場が継続的に使われるように、誰がマネジメントを行うかなど今のうちから考えておくべきである。

◆今後の進め方について

- ・これまでの意見がどのように反映・検討されているのかをもう少し明確にしてほしい。